

芽を出した社会貢献



リージョナルステート研究会

北海道技術士センター理事
リージョナルステート研究会副会長
技術士（衛生工学／総合技術監理部門）

Nagase Jiro

永瀬 次郎

リージョナルステート研究会は、北海道の自律と活性化のために、技術士として提案し具体的に実行し、社会貢献を実践することを目的として平成 12 年度に結成されました。結成から 6 年を経た現在は、4 つの分科会に別れ、それぞれが目的意識を持ち、独自の方針を定めて日々活動しております。以降に 4 つの分科会の活動内容をご報告いたします。

1. 自然科学教育分科会

最近の子どもたちは理科を苦手とする傾向があり、いわゆる「理科離れ」と呼ばれる現象が懸念されています。日本は今まで、卓越した科学技術をベースに継続的な発展を遂げてきました。日本の将来を託す子どもたちには、理科に興味を持ち、自然科学の不思議・魅力を理解してほしいと考えております。私たちは、そのためにまず、自然科学に親しむ体験をすることが必要だと考え、様々な活動を実践しております。

現在は会員 28 名に加え、学生などを含むサポーター 39 名の合計 67 名で活動しております。

活動メニューとしては、地域の小学校を訪問しての野外授業の開催や、イモ堀り体験および試食会、「自然体験サバイバルキャンプ」と題した宿泊旅行などを行っています。このキャンプには理科実験教室を盛り込んでおり、実際に目にする海や山の自然に関連した実験を行いますので、子どもたちも興味津々で取り組むことが多く、自然科学の楽しさを味わう事ができているようです。

今後の学校訪問でも、子どもたちがなるべく興味を持つように、それぞれの施設の立地環境に関連した野外授業の開催を行うなどの工夫を凝らしていきたいと考えております。



写真-1 イモ堀り体験を楽しむ子供たち

2. 観光分科会

平成 11 年度～16 年度の観光客は、道内客、道外客、宿泊延べ人数とも減少している傾向がある中で、一部外国人観光客が増加している地域もあります。当分科会は観光をテーマとした地域の取り組みを学び、技術者の立場から支援・提案を実践してゆきたいと考えております。

現在は会員 23 名で活動しております。活動メニューとしては、講師を招いての勉強会やワークショップ、見学会などを主に活動



写真-2 オープンガーデン見学の様子

しております。

7月には恵み野オープンガーデンの見学と恵庭「えこりん村」の環境共生への取り組み状況の見学会を実施いたしました。

町のいたるところに手入れが行き届いた美しい庭があり、それを眺め、会話する観光客の姿があり、「花のまち」としての新しい観光の形ができ始めているようです。また、環境保全への関心が高まる中、「えこりん村」における循環型社会形成を目指した、真摯な取り組み姿勢と環境技術は、技術者の興味を掻き立てる魅力があり、その集大成である庭園と相まって、観光資源としての大きな可能性を感じさせました。

今後も現地視察を積極的に行い、地域住民とコミュニケーションを深めると共に、環境対策など専門家の目から見た、新しい地域観光資源の発掘にも努めてゆきたいと考えております。

3. 循環技術システム研究分科会

京都議定書が発効され、循環型社会構築への気運が高まっていますが、具体的環境保全活動はなかなか進んでいないのが現状です。私たちは、北海道を循環型社会とするために、関連技術の現状把握と課題を整理し、社会システムのあり方の提言をすべく活動しております。

現在は会員 39 名で活動しております。活動メニューとしては、会員の専門分野が多岐にわたっている特性を生かし、会員それぞれが講師となり、普段の環境関連活動を講演会形式で発表する事を主としています。また、外部講師を招いての勉強会や、見学会なども積極的に実施しております。最近の講演会事例としては、バイオガス関連施設（中空知 3 施設・別海プラント）、新エネルギー関連（地中熱利用ヒートポンプ・雪氷冷熱利用）、循環資源（ホタテ貝殻による濁水処理）などが有ります。また、西欧の新エネ利用社会システム紹介やサハリンレポートなど海外にも目を向けています。見学会としては、京極揚水発電所と札幌市内のエネルギー供給施設を訪問し、知見を深めることができました。

循環型社会を成立させるためには、個別の要素技術だけではなく、広い視点からの社会システムの見直しが必要です。それには今までと異なる切り口からの検討も必要と考え、試みとして「観光」の視点で、他の分科会との活動の連携も始めております。

以前、有機質廃棄物に的を絞った提言書「循環型北海道を目指して」を発表いたしました。現在は知識醸成の期間としておりますが、一歩進んだ視点で、環境保全に寄与できる成果品を再び発表すべく、活動してゆきたいと考えております。



写真－3 京極揚水発電所見学の様子

4. 地域主権分科会

当分科会では地方分権、権限委譲、人口減少、市町村合併、地域経済等私たちを取り巻く社会経済情勢を踏まえて、これからの北海道のまちづくり、地域づくり、社会資本整備のあり方などを検討・研究し、技術士として、社会に提案・提言し、行動することを目的としています。

会員は現在 23 名で構成されています。会員の所属は官公庁、コンサルタント、メーカーなど多岐にわたっており、技術士の登録部門は建設部門を中心に、上下水道部門、農業部門、環境部門等から構成されています。



写真－4 外部講師を招いた勉強会の様子

活動としては、隔月に 1 度程度研究会を開催し、メンバーの自由な発想の下に各種のテーマを議論・検討しています。最初に議論するテーマは、会員内でアンケート調査を実施し、数多く出された項目の中から支持を多く得た次の 3 項目に絞りました。

- ① 地域主権
- ② 人口減少下の社会資本整備
- ③ 地方の経営と社会資本整備

今後は 2 年程度かけ、フィールドワークなども取り入れながら、道内のモデル的な地域を設定し、将来自立していくためのまちづくりのありかたなどの提言・情報発信を行い、北海道の自立と活性化のために貢献していきたいと考えております。

リージョナルステート研究会は、北海道の自律を目指し、今後も楽しい活動を実践していきたいと考えております。少しでも多くの方々が、私たちの活動にご賛同いただき、一緒に活動してくださることを願っております。